

織物を生かしたまちづくりに関する分科会での検討について

令和4年2月

1 分科会設置の背景

栃尾は古くから繊維産業で栄えてきた。

昭和59年にピークを迎えて以降、安価な海外製の繊維製品に押されるなどして衰退してきたが、その技術力は国内外のアパレルブランドにも認められるなど、今でも繊維産業は栃尾地域の基幹産業である。

繊維産業がウイルス禍で深刻な影響を受けている中、歴史ある織物産地として生き残っていくため、織物を地域の宝の一つとしてまちづくりに生かしながら、産業としての活性化も果たしていくようなアイデアが必要とされている。

2 分科会で検討する内容

まちづくりや活性化のためには、繊維業界の協力に加え、地域住民(=消費者)及び行政との連携が不可欠である。

そのため、地域住民としての視点に加え、製品を消費するユーザー側の視点から産地の現状を把握するとともに、織物を生かしたまちづくりや業界のイメージアップ等のためのアイデアを検討いただきたいもの

- ・本分科会で行う議論は、「住民目線・ユーザー目線でのアイデア」であり、「業績回復のための具体的な解決策」までは求めない。
- ・併せて、栃尾紬などの伝統的な繊維文化伝承についても、アイデアを出していただく。
- ・検討内容に応じ、関係団体や関係者にも出席を依頼。
- ・検討は令和3年度だけでは終わらないため、4年度にかけて分科会を行っていく。

3 分科会での検討スケジュール案

(1) 令和4年2月 令和3年度 第4回分科会

- ・繊維業界の現状把握

※ 参考

令和4年5月 令和4年度 第1回地域委員会

(2) 令和4年6月 令和4年度 第1回分科会

- ・まちづくりやイメージアップ等のための意見交換

(3) 令和4年8月 令和4年度 第2回分科会

- ・意見の整理及び今後の取組みについて

(4) 令和4年10月以降 必要に応じて、次年度の予算要求を検討